

保有ポイント 簡単確認

筑豊210店共通「チクスキパス」

九工大院生ら 利用促進へ新システム

筑豊地区の飲食店など約210店舗で利用できる共通ポイントカード「チクスキパス」の利用促進につなげようと、九州工業大大学院（飯塚市）の学生らが保有ポイントを簡単に確認できるシステムを開発した。カードを運用するデザイン会社「トーン」（同）は、提携店への導入を検討している。

（有馬友則）



パスは、無料の地域情報誌発行などを手がける同社が2016年8月からサービスを始めた。提携店は飲食店や美容室、ガソリンスタンド、クリーニング店など多岐にわたり、食事や買い物ですれば100円につき1ポイントがたまる。1ポイント1円として使うことができ、1万人を超える利用者がいる。

ただ、保有ポイントを確認するには、パス利用時に提携店の専用端末を見せてもらうか、ウェブ会員登録して同社のホームページ上で確認するかのどちらかしが方法がなく、利用者から「もっと簡単に確認できるようにしてほしい」との声が上がる。スマートフォンなどを使ったポイント確認システムを手にする寺島さん（右）と山口さん（左）。

7月中旬から約1か月前、大学近くの飲食店に試験導入したが、運用面に問題はなく、「ポイントがすぐに分かって便利」と利用者にも好評だった。寺島さんは「どうやってポイントを確認させるかなどで苦労した。多くの提携店に導入してもらい、チクスキパスの利用が広がってほしい」と話している。

が上がっていた。そこで、同社は九工大との産学連携プロジェクトとして、ポイント確認システムの開発を計画。いずれも同大大学院情報工学府2年の寺島裕太さん（24）、山口竣平さん（同）、山下拓人さん（同）が昨年5月から開発を進めていた。

新システムでは、スマートフォンにダウンロードした専用アプリを使い、パスの保有ポイントを読み取る。次に新たに取得したり、利用したりするポイントを入力し、画面の印刷ボタンを押すと、ポイント残高などを記した紙が専用プリンターで印刷される仕組みだ。